



カナダの イヌイットの 彫刻

E100
.A77
C37192
c. 1

Canada

「イヌイット」とは?

エスキモーといえば、小柄でいつも毛皮を身につけて犬に曳かせたそりに乗って氷原をあちこち狩をしながら移動する愛らしい民族を思い浮かべる。日本ではおそらく誰でもが「エスキモー」は知っている。最近はエスキモーの彫刻が北部カナダからの輸入や土産品として日本にも沢山入っている。

ところでエスキモーという呼び方は実は当人にとって大変侮辱感を与えるので、最近はカナダはじめ各国で「イヌイット」と呼ぶように改めた。「エスキモー」とはインディアンの言葉で「生肉を食うやつら」という意味だった。「イヌイット」とはイヌイット語で「我々人間」という意味を持つ。

これは例えば長い間シャムと呼ばれることに屈辱を感じていた国の主張で「タイ国」と名称が改められ、今は世界中で抵抗なく受け入れられているのと同じ。これからは日本でもエスキモーという呼び方はやめて、イヌイットに改めて慣れてほしい。イヌイットの手工芸品には芸術的価値があり、専門家からも注目されている。このパンフレットを読んで理解を深めて頂くことを願っている。



Indian and Northern
Affairs Canada

Affaires indiennes
et du Nord Canada

LIBRARY – BIBLIOTHÈQUE

E100.A77 C37192 c.1
[Canadian Inuit sculpture]

10-482 (1-88)

●絶滅したドーセット文化の彫刻には骨の自然な形がそのまま残っており、今日でもその発想はイヌイットの芸術家に受けつがれている。多くの古代の作品、現代のイヌイットの彫刻と同様、このドーセットの作品は小さいにもかかわらず大きさを表現している。

有史以前の 北極地方の 遺品

カナダの北極地方には4000年以上前から人類が居住していた。相当量の造形美術品が現在知られている最初の種族、ドーセット文化（BC600—AD1000）に属している。骨、動物の牙や木片を使って造った彫刻には熊やほかの陸上又は海洋動物像、人間像、大小の面や顔がある。これらの作品ははっきり宗教的・魔術的意図のもとに作られたと思われ、魔よけとして身につけたりシャーマン教的儀式に用いられたと考えられる。

チューリー文化の人達（今日のイヌイット人の祖先）はアラスカの北部から約1000年前に移住して来て、先住民だったドーセット人を追い払った。チューリー文化の美術はアラスカの原型にもとづいたも



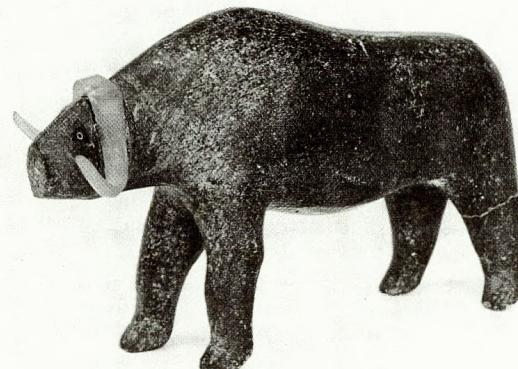
2 ●ドーセット文化の彫刻には力と神秘性が感じられるが、チューリー文化の作品には装飾的で優雅なおもむきがある。この小さい牙で作った櫛は優美で女性的な曲線があり、機能的であると同時に美しさも考えて作られたもの。

ので、人間や動物の像も若干あるが大部分は櫛、小物入れ、鋸のとめ木又は狩猟用の道具などの実用品に装飾をほどこしたものばかりだった。この道具に刻まれた象徴的なしるしには宗教的意味は含まれてはいない。

近代の イヌイットの彫刻

16世紀に入って気候が変化し以前より寒くなり、チューイー文化が崩壊した頃ヨーロッパとの接触が始まった。イヌイット人は捕鯨船の乗組員やキリスト教の宣教師とその他の異邦人達と交易を行った。動物像、道具の模型、欧風器具をまねたものなどを牙で作り物々交換に使った。ヨーロッパとの接触が始まってから300年ばかりの間を歴史時代と呼ぶ。

3 ●このジャコウ牛の像是1900年頃の無名の彫刻家の手になるもの。小さな動物の彫刻やイヌイットの日常の道具類、又はカナダ南部やヨーロッパから移入された品物の模造品は、しばしば武器あるいは茶や酒類と物々交換された。



現代のイヌイット芸術は1940年代の後半から始まった。イヌイット人への経済的援助を考慮して、カナダ連邦政府は彫刻の発展を積極的に奨励し、「ハドソン・ベイ会社」と「カナダ工芸品組合」がそれに協力した。1950年から1960年代まで方々の北極地方の集落にイヌイット人所有の協同組合が設立され、カナダ南部には芸術品マーケティングの代理店も設けられた。それは遠く離れた北極地方の小集落にも収入をもたらすだけでなく、イヌイットの彫刻は現代の重要な芸術の形式として国際的に認められる基準となった。

テーマとスタイル

イヌイットの彫刻は一見したところ比較的均一した様式に見えるが、実際はテーマ・スタイルともに変化に富んでいる。イヌイットの人口は約25,000人だが、広いカナダの北部全般に散らばっている。彫刻を作る30余りの集落はそれぞれ独自の題や形式を発展させてきた。

テーマとしては当然北極地方の自然や動物、イヌイットの伝統的な狩猟や家族風景が多いが、ほかに宗教的な彫像、伝説やシャーマン教的な発想にもとづくものも沢山ある。様式としては厳密な自然主義（リアリズム）のものから装飾的又はミニマルな抽象的なもの、強烈な表現主義からシユールリアリズムに及ぶ。個々の芸術家の独特的なスタイルは時間をかけければ見分けることができる。

4 ●この大きな丸いフォルムは1950年代の始め頃のイヌクジュアック集落の作品の特徴。これはこまかく彫ったセイウチの牙のはめこみのある家庭内風景像である。大きいスケールへの変化や芸術家の才能の向上は、現代初期の作品を歴史時代のものから区別することができる。



素材と手法

現代のイヌイットの彫刻で一番よく使われる素材は牙から石に替った。石だと多彩な色と自由な形を作れるばかりでなく、大きなものも可能になる。風雨にさらされた古い鯨の骨もよく使われるが、牙や鯨の骨は国際的に限定されてきたので減っている。入手さえできればカリブー鹿の枝角やジャコウ牛の角も使われる。二つ以上の素材が合わせて使われることが多い。たとえば角や牙が石にはめこまれる。

「石鹼石」という名称が石の素材によく用いられるが適当ではない。石鹼石はもろい凍石なので実際



に使われるのは蛇紋岩、シルト岩、粘土質岩、ドロマイト、石英など。素材としての石の長所はどんな大きさや形にも仕上げられることである。色はくすんだ灰色から宝石に近いあざやかな緑、白、青緑、黒などがある。牙、鯨の骨、枝角や角には素材としての形や大きさの制限があるがイヌイットの彫刻家達は自然のままの形を発展させて独自なものを生みだしている。



6 ●イヌイット彫刻家は材料を直接感じとて、手斧、やすり、ナイフなどの小型の手道具を使うことが多い。

5 ●彫刻を作るには沢山のゴミが出る。イヌイットの彫刻家達は体に害のある石埃を吸わないように冬でも戸外で仕事をする。

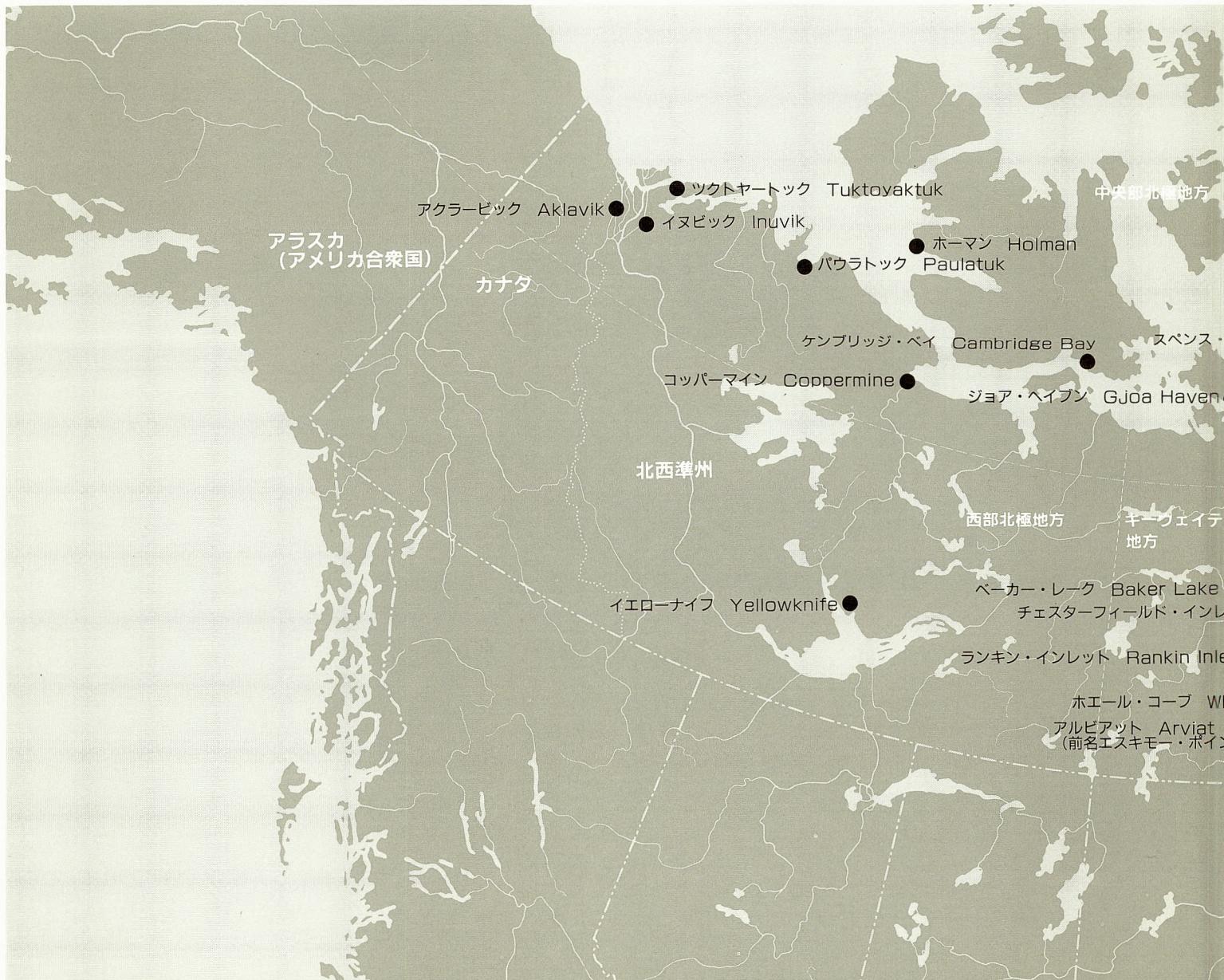
材料はよく不足することがある。その時は遠くまで陸送か船で良い石を採掘に行かねばならない。素材さえ手に入れば彫るのはかなり速い。必要な手法は伝統的な道具とともに昔から受けつがれてきた。小さい電動器具を使うことも増えてきたが、まだ古来の習慣に従って手仕事で作られることが多い。まず鋸、斧、手斧、金鎚、ノミが大きく形を作るのに使われる。次にやすり、石やすりが細部に、最後に鉄綿と紙やすりが仕上げの磨きに使用される。こまかい刻み込みには小型のナイフや釘が利用される。

地域によるスタイルの相違

おもなイヌイット彫刻の制作地は（除ベーカー・レーク）数百人から千人位の人口の小集落にあり、北極地方の海岸に点在している。それぞれの集落に特有のスタイルがあるものの、地域全般にも共通した特徴があることは否めない。

北極部ケベックの彫刻にはリアリズムの傾向があり自然を描写することが多い。動物や写実的な狩猟風景、伝説、物語を主題とする。灰色の石を黒くしてから磨きをかけ、その上で刻みを入れたものが多い。

バフィン島南部の彫刻家は多種類の石を使う。あたかも石に挑戦するかのようにして、手の込んだ繊



細でしかもドラマチックなものを彫る。優雅でユーモラスな動物像が多数。

中央部北極地方の彫刻は神話的又はシャーマン教的な主題で写実主義のものからシュールリアリズムまでに及ぶ。顔面には手の込んだこまかいはめこみがあり誇張が大きい。素材は石と鯨の骨が主である。

キーウェイティン地方では硬質で灰色又は黒の石

が産出される。彫刻家はこの石らしさを表現の要素としてうまく利用する。こまかく彫らず磨きもかけない。人間像、特に家族風景のテーマが多い。

他のカナダの北極地方の作品はあまり一般に知られていない。写実的な動物や狩猟を主題にしたものがバフィン島北部、西部北極地方やラブラドルに多く見られる。



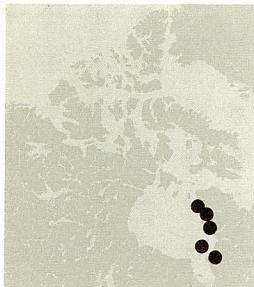
サニキルアック

クージュアラーピック

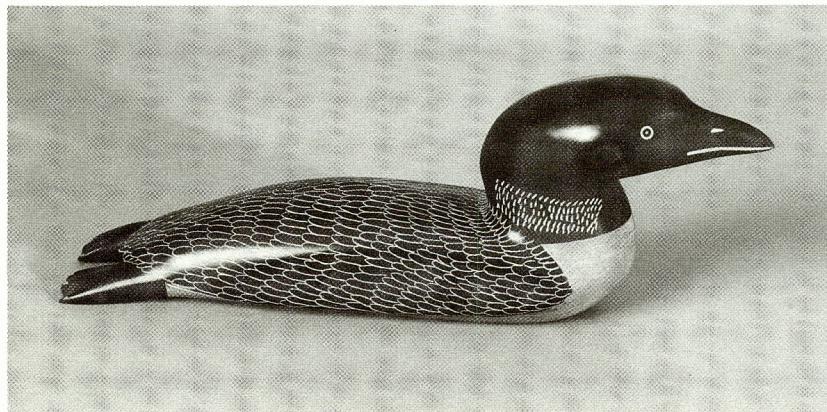
イヌクジュアック

ブベンヌックツーク

アクリピック



7 ●鴨の一種のこの彫刻はサニキルアックの芸術家の自然なスタイルの典型。鳥や動物の姿を注意深くとらえ、きめのこまかい粘土質岩に磨きをかけて、写実的な刻みを入れたもの。



ハドソン湾のベルチャ一群島にあるサニキルアックからの彫刻には美術品収集家にも観光客にも人気がある。人や野営風景を主題にしたものも作られるが、この島の北極動物、ことに鳥や海洋動物の像の描写が優れているためこここの集落の作品が珍重される理由になった。サニキルアックの彫刻は多少様式化され、角ばったところもあるが、全般には写実的。エレガントな形に磨きがかけられ、細部の刻みがある。使用される石にも人気のある理由があり、粘土質岩で淡緑色から黒に近い色がある。独特の縞模様があつて磨くと美しい光沢が出る。

クージュアラーピックはサニキルアックの対岸ケベック側にある。双方の集落に親戚関係があり、いったりきたりする彫刻家もあるので作品のスタイルが似ているのは当然。北にあるイヌクジュアックからの影響もある。モチーフには野生動物、家族生活や野営の有様などが主だが、幻想的なものもある。彫刻家は入手できる時はサニキルアックの石を使うが、たいていは北極部ケベックの灰色の石で間に合わせている。



8 ●イヌクジュアックからのこの作品を見ても判るように現代のイヌイットは単に狩猟や家庭生活をするだけではない。これら美術品を制作、販売することによって、伝統的な習慣を変えないでも生活の足しになり、雇用の道が開ける。

イヌクジュアックの彫刻は非常に写実的で、穏やかすぎて活気に欠けている。丸くて量感があるが、石をくり抜いた部分が少ない。家庭の情景、特にチャーミングな母と子の像や狩猟の光景の題が好んで選ばれる。ほかにモチーフとしてとりあげられるのは鳥、魚、熊などの動物で、写実的に彫られている。神話的なものは殆んどない。早い時期の作品の素材は斑文のある濃い緑の石だが、今でも同じ石が採掘されている。灰色の石を黒っぽくして刻みをつけたものも多い。昔は牙をはめこんだり組合せたりしたものがあったが、今日では少なくなった。

ブベンヌックツークの彫刻も、また写実的で自然の細部を強調している。ただイヌクジュアックのものと違って逞しい活気にみち、泥臭い感じもする。

10●これはクージュアラーピック作家の作品。母と子供達のイメージの表現はイヌイット全般の作品によく見られる。この彫刻はこじんまりしたなかで幅の広い量感を出していいるところが、又イヌクジュアックのものとも似ている。



活発な狩猟風景が多く、テーマもスタイルも男性的である。北極部ケベックの作品に多く見られるように、毛や顔の表情などが、黒すませて磨きをかけた表面に丁寧に刻み込んであるのが装飾的な感じを与える。この集落の彫刻家は皆アクリビックに移住したので、双方の彫刻様式は似通っている。

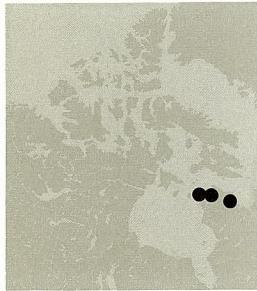


9●このアクリビックの彫刻は北極熊がセイウチをあしらうのにも気を使っている様。水際の氷の層をみせるかのように石を白く残してある。

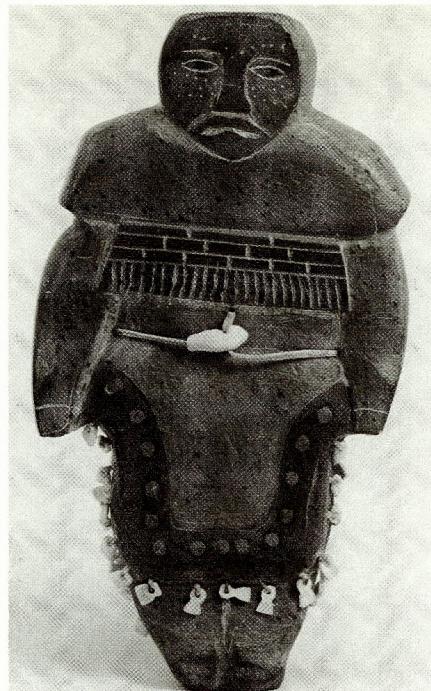
11●この横たわる女性像は巨大な頭を持つ奇怪な女神が夢を見ているところ。こういった神話的な題はブエンヌックツークの作品によくみられる。



サルイット
イブジビック
カンギルスック



12●1980年製作のサルイットからのこの作品はテーマ、スタイル、素材の石など30年前の1950年代のものを思い起させる。近頃この集落で作成される彫刻は、ほかの北極部ケベックの集落で作られるものと似ている。



13●カニギルスック製のこの女性像はさまざまなアクセサリーを身につけて、まるで人形のように見える。この集落の作品は一寸変った民俗色豊かなものである。

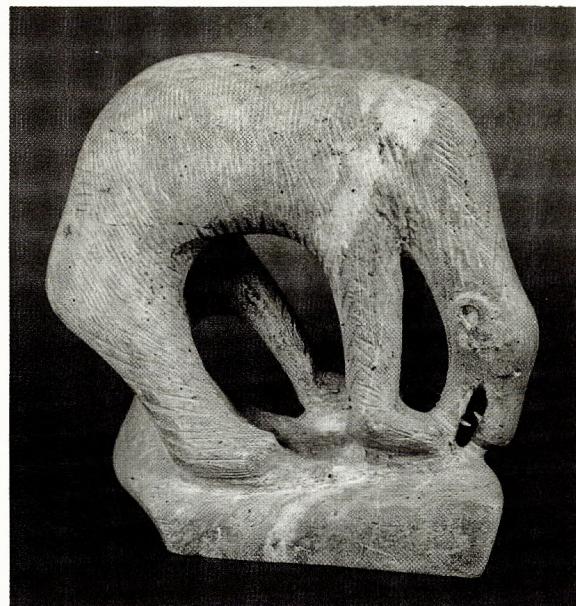
サルイットとイブジビックにも、前述のイヌクジュックと同じく、狩をしている男とか家庭で働く女の像が多い。1950年代に壮大で動きの少ない「ロマネスク様式」ともいえるような、素朴で又現実的な要素を持ったスタイルが発達した。つまり地元で産出する粗い灰色の石を素材にして量のある大きな身体に浅く衣服のひだを刻み、小さな繊細な頭や顔をつけたもの。これらの作品の中には初期のものを思わせるものもあるが、最近は北極部ケベックのスタイルに近くなっている。素材もテーマも多様化してきている。

カンギルスックの彫刻には民俗芸術風の性格がある。テーマと構想が変っていて粗野でもあるが、技術的に完成したものより風変わりな魅力が感じられる。ざらざらした灰色の石を部分的に黒くしてあるのが奇妙な効果をあげている。



14●イブジビック作家のこの作品は石で彫ったものの中に顔の部分だけ枝角をはめこむ古い手法を応用したもの。しかし全体的には自由な表現で現代的彫刻になっている。

クライド・リバー
イグルーリック
ホール・ビーチ



15●ホール・ビーチ製のこの彫刻は獲物を引き裂いている痩せた熊が空腹のために狂暴になった状態をよく表現している。写実的なこの熊は図9のアクリビックの熊と較べると良い対照。

クライド・リバーではバフィン島北部から採れる淡緑色の石を使う。とはいっても主な材料は海岸に散らばっている古い風化した鯨の骨が多い。ここは今では鯨の骨の彫刻の中心地となっている。作品のな

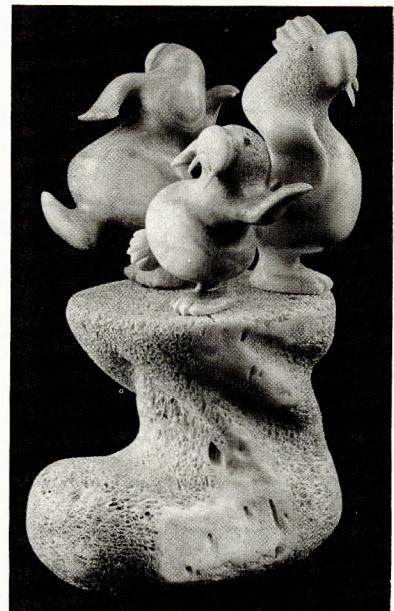


16●イグルーリックからのこの彫刻はセイウチの牙で作られている。これは人間、動物、神話の中の創造物からなる。こういったトーテム・ポール状の作品はあちこちの集落でも作られている。この作家は握りしめた手の形で「激しさ」を表わしている。

かには動物や人間、狩猟風景をリアルに描写したものもあるが、この地の特徴はユーモアや気まぐれの雰囲気にある。踊ったり、手をふったりしているセイウチがその代表。石の彫刻は全体に柔かいうねりを持ち、そこへ手の込んだ仕上げをする。作家が自然の形をそのまま使った例としては鯨の背骨に双面を彫ったものなどがある。

イグルーリックの彫刻は大きさ、テーマ、様式あるいは芸術家としての視点、ともに前述のパンヌックツークと似通っている。狩猟のドラマや伝説からの感動などが大きく強く表現される。イグルーリックの石は殆どざらざらした灰色。細部の描写はこまかいが仕上げに磨きはかけない。淡緑色の石はバフィン島のメアリー河から移入されたもの。

近くのホール・ビーチでもイグルーリックに似た彫刻ができるが、むしろ柔かい感じのクライド・リバーやポンド・インレットのものに似ていることもある。



17●イヌイットの芸術家のなかには動物を擬人化させる人もある。このクライド・リバーの作家の彫刻は実にユーモラスで、およそ優雅とはほど遠い3匹のセイウチが、カミックと呼ばれる長靴の上で楽しそうに踊っている有様。

ケープ・ドーセット

レーク・ハーバー



18●この鶴が羽を括げたような鳥はケープ・ドーセットからの作品の特徴をよく現す。簡潔な自然のうちにも装飾性を生かし優美に身構えている。この集落の作家達は繊細なバランスのとれた作品を造ることを誇りにしている。

ケープ・ドーセットはカナダ北部にある芸術品制作地として一番有名。ここには大勢の才能のある彫刻家がいるので、スタイルも様々なのは当然だが、一応の共通点はある。ケープ・ドーセットの彫刻様式は自然に対する愛、野生動物又は靈魂の世界に根ざしているが、一面華やかで劇的な装飾性を取り入れている。形式化された優美な自然を見せながら高度



なテクニックで仕上げが完成されている。芸術家の自意識と、作者が素材に取り組む意慾が作品から感じられる。宝石のように美しい色の緑色の石から白いドロマイト石まで素材の種類はさまざまある。それを使って信じ難いほど薄いほどものや、又は微妙に均衡のとれた形が作られる。好まれるテーマは自然か神話の中の動物。大きさもスタイルもドラマチ

20●ケープ・ドーセットの彫刻家達は動物が違う動物に形を変えること（メタモルフォーズ）、又は動物から人間に変身するものに興味を持っている。時には奇妙に感じることもあるが、ユーモアがあり劇的である。



19●イヌイットの芸術家達はまず自分で自然をよく観察し、自分の気に入った動物を見つけると、素早くその生き生きした動作を作品に仕上げる。このレーク・ハーバーからの作品のように、イヌイットの動物彫刻は常にのびやかにテーマがこなされている。



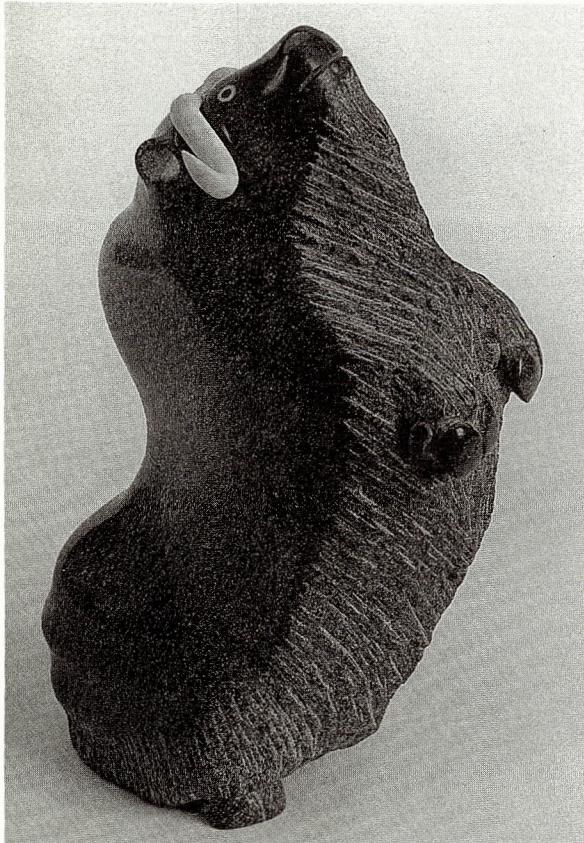
ツクなものが多い。

レーク・ハーバーはケープ・ドーセットと同様にきれいな石で有名である。さまざまな緑色の石、特に澄んだうすみどり、又はクリーム色のものが珍重される。レーク・ハーバーの作家は具象的様式を好み、いろいろな動物を自然に優美な形に流れるような曲線で表わして、石によく磨きをかける。

イカルイット
パンヌックツーク
プロートン・アイランド



21●イカルイットの彫刻家達はジャコウ牛とか熊など大きな動物をデフォルメして造る。この作家は後足で立ち上がったジャコウ牛の背と腹側の毛並の違いを石で巧みに表現している。



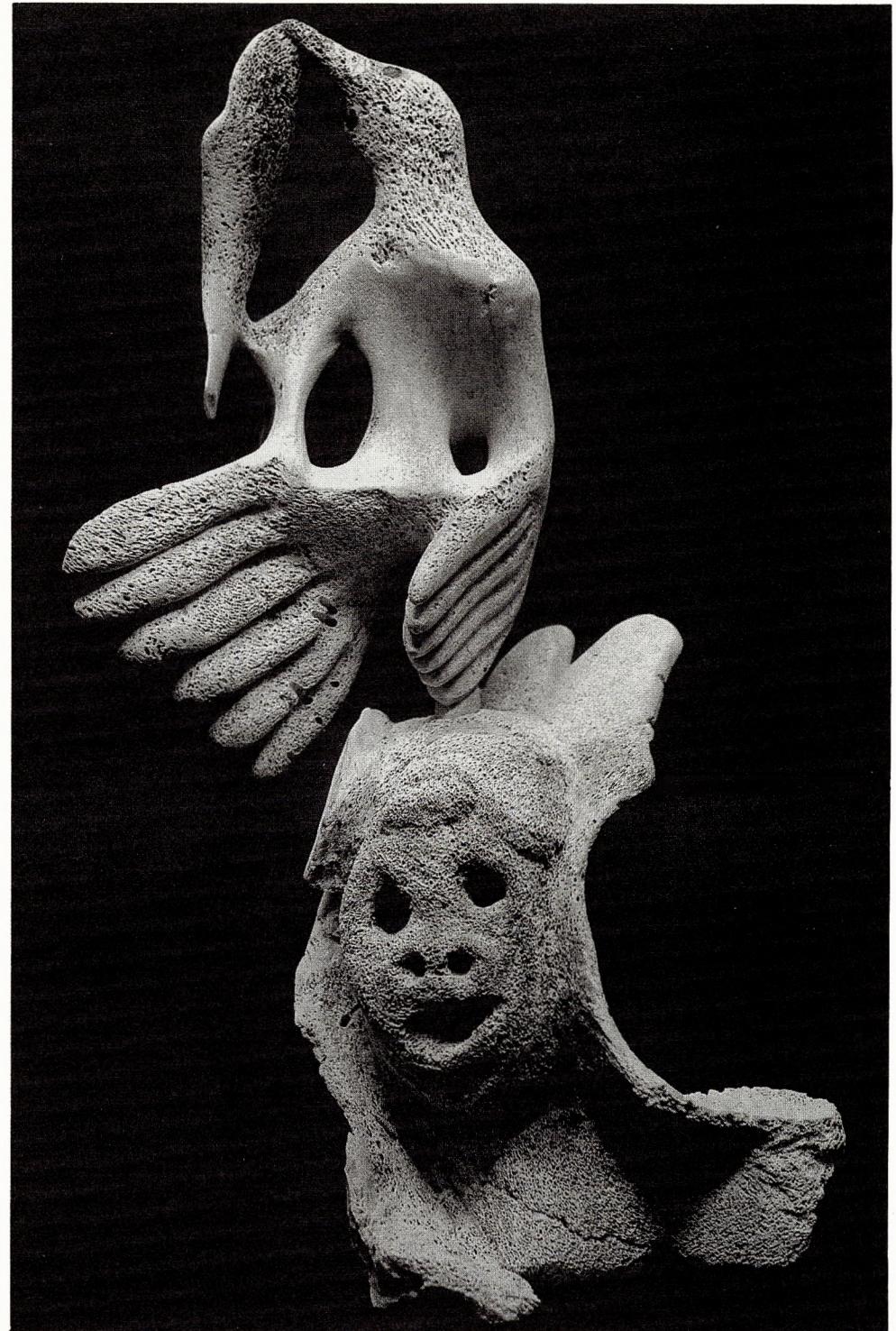
イカルイットは北西準州の東部の行政中心地であるため、かなり外界からの影響を受けた。ここは又バaffin島の中心でもある。そのためこの様式はよそほど単純、均一ではない。ただし近くの集落のように優雅で華やかな北極の自然描写は同じ。動物、特に熊とカリブー鹿やジャコウ牛は写実的に彫られるが、なかには誇張された、又は普通にはない堂々としたポーズの姿も多い。

パンヌックツークの彫刻にはイカルイットの作品と同様に、雄大かつ現実的な動物像や人間像がある。素材は石がもっと多いが、鯨の骨も使われる。作家達はドラマチックで神秘的な彫刻を大型に仕上げる。

プロートン・アイランドの作品もパンヌックツークのものに似ている。両集落の住人はそれぞれ行き来している。この作家達は鯨の骨か、淡い又は濃い緑色の石や黒っぽい石を素材として使う。

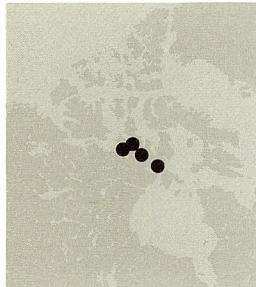


23●素材としての風化した古い鯨の骨はさまざまな形や表面の感覚の違いが可能。このパンヌックツーク製の神話的な力強い作品はこのような元の形を生かしたものである。



22●プロートン・アイランドからのこの彫刻は二人のレスラーが戦っているところ。顔の表情、激しい動き、衣服のひだなどが写実的。この作品の面白いところは違う方を下にしても安定した形になること。

スペンス・ベイ
ジョア・ヘイブン
ペリー・ベイ
リバルス・ベイ



25●ペリー・ベイで鯨の骨で作られたこのような繊細な美しい風景の彫刻はかつては沢山交易品として扱われていた。

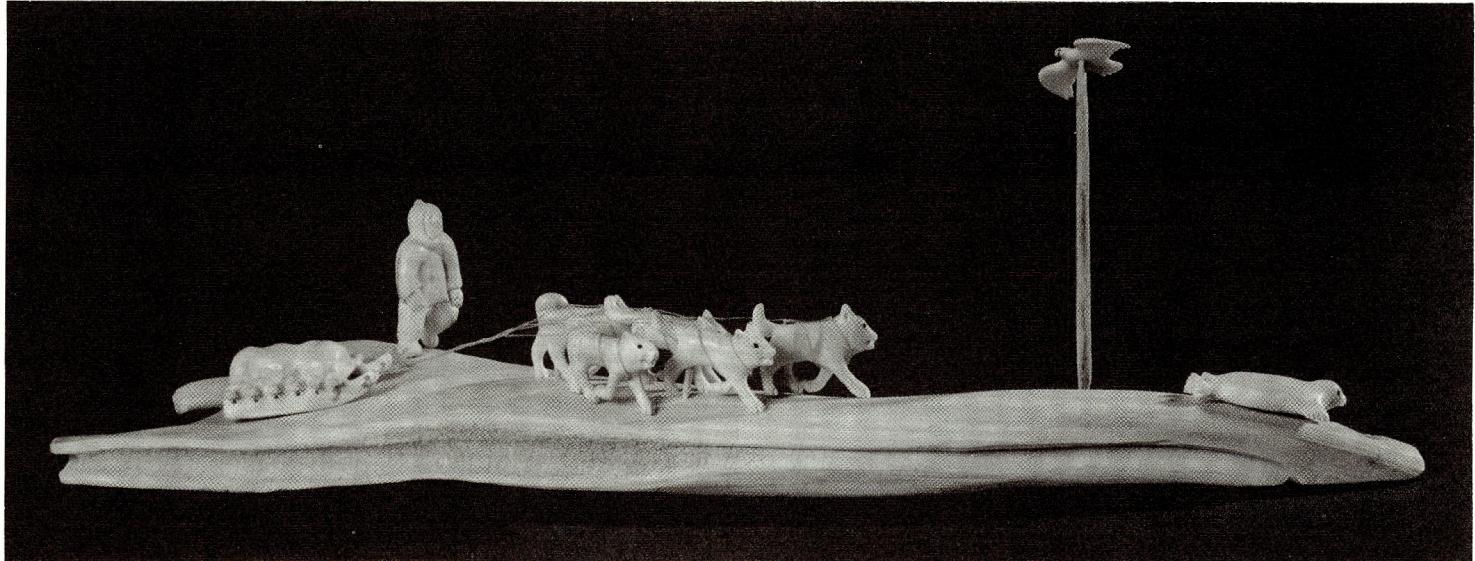
スペンス・ベイがまず有名になったのは大きく突飛な形をした鯨の骨の彫刻から。この集落の作品は一人の彫刻家、カロー・アシェバッック、のものが圧倒的だった。彼の作品はシユールリアルとひょうきんなものを合わせて、感動的でしかも滑稽な傑作が数々あった。そのスタイルは他の人たちに真似をされたが、素材が主に石に替ったことと、若い才能がのびてきたので違ったものも作られるようになった。今でもスペンス・ベイの彫刻は感動を与えるところと、おどけたところが混っている。

ジョア・ヘイブンの彫刻もスペンス・ベイの影響を受けるところが大きい。同じように形をゆがめた表現主義風の人間や怪物の像と顔を、石や鯨の骨、セイウチの牙、角など材料を組み合わせて作ったも



24●スペンス・ベイの作家達はほかのイヌイット作家と同じように、古い鯨の骨の自然の形を利用しながら新しい様式をうち出すことを工夫している。このむつりしてどことなく愛らしい女性像はスペンス・ベイの彫刻に共通する神話的なものを語る。

今では制限されているので多くはない。貴重な品として今も収集家から高く評価されている。



26●スペンス・ベイからの解剖学的に正確に彫られたハヤブサ。これと図7.のサニキルックの羽を刻みこんだ鳥や、図15.のケープ・ドーセットの様式化した鳥を較べると面白い。



の。ただ今日ではジョア・ヘイブンの彫刻家達の方が中央部北極での重きをなしている。長い間素材には輸入品の半透明な緑の石を使っていたが、今ではここから少し離れた所で産出するもっと硬い濃緑色または黒い石を使う。

ペリー・ベイの彫刻はセイウチの牙のミニチュールが有名。これは長年この地へ宣教に来た人達の奨励があったため。今でも牙、枝角や石を素材にした小さく纖細な作品ができる。

リパルス・ベイの彫刻はある意味では歴史時代に捕鯨船や宣教師との物々交換に作られたものを思わせる。セイウチの牙が一番使われる素材。そのままか、石や枝角と組合わせて、ペリー・ベイのようなミニチュールが作られる。飾りけのない民俗芸術的な要素のある動物や生活の情景が多い。

28●リパルス・ベイからの小さな作品。三角形の波の上にたわむれる二匹のセイウチは、実は二人の女神。このようにイヌイットの芸術家は神話的テーマを自由に演出す。伝統的信仰は昔より薄れたが、今でもイヌイット文化の一部として受けつかれている。



27●ジョア・ヘイブンからの作品には異った材料を組合せたものが多い。この空想上の怪物の彫刻も頭蓋骨、鯨骨、枝角などの組合せからなる。面白いが、奇怪でもある北極中央部からの作品の典型。

ベーカー・レーク

アルビアット

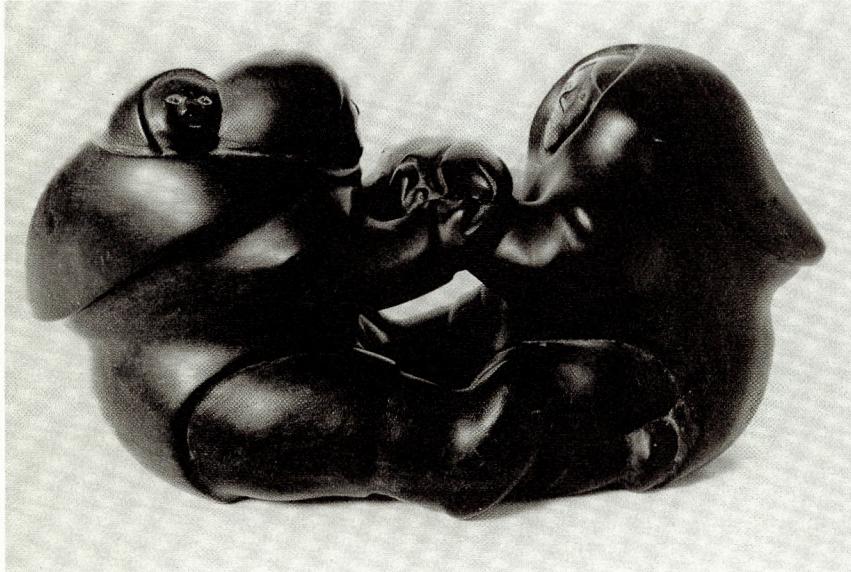
ランキン・インレット



ベーカー・レークはカナダの北極地帯では唯一の内陸にある集落。ここはキーウェイティン石と呼ぶ硬い石から彫った、大きくて重いがダイナミックな狩人や動物の像で有名。もともと写実的な構成だが、細部を省略しておおらかな曲線と量感を粗く打ち出す。テーマとしてはジャコウ牛が彼等自身が狩人でもある男性の彫刻家に特に多い。女性作家は母と子のようなものと繊細で感傷的な題を選び、小さな作品を作る。動物から人間に変身するものはベーカー・レークの彫刻にも版画にも多い。

アルビアットの石像はイヌイットの彫刻の中では最も写実から遠い。一見して優雅さや精密さがない。人によってはこの彫刻は粗野に見えるかも知れないが、感性豊かなところがある。ここの凍石と呼ばれる石は硬いので、たいていの作家は形を大まかに造る。もっとも多い題は家族や母子像。また一方では鳥や動物、狩や遊びの風景を気軽に描写したものもジャコウ牛の角から作る。よそのイヌイットの集

30●ランキン・インレットからのものだが、この作家はあちこちキーウェイティン地方の集落にも住んだことがあるので、そこの彫刻家達、特にティクタクからの影響が強い。省略された顔や体はこの地方の典型。



29●ベーカー・レークからの作品の典型。曲線で構成された大きな重い石の塊。こまかく彫られたところは少ないが、表現が繊細で磨きもわりに充分にかかっている。

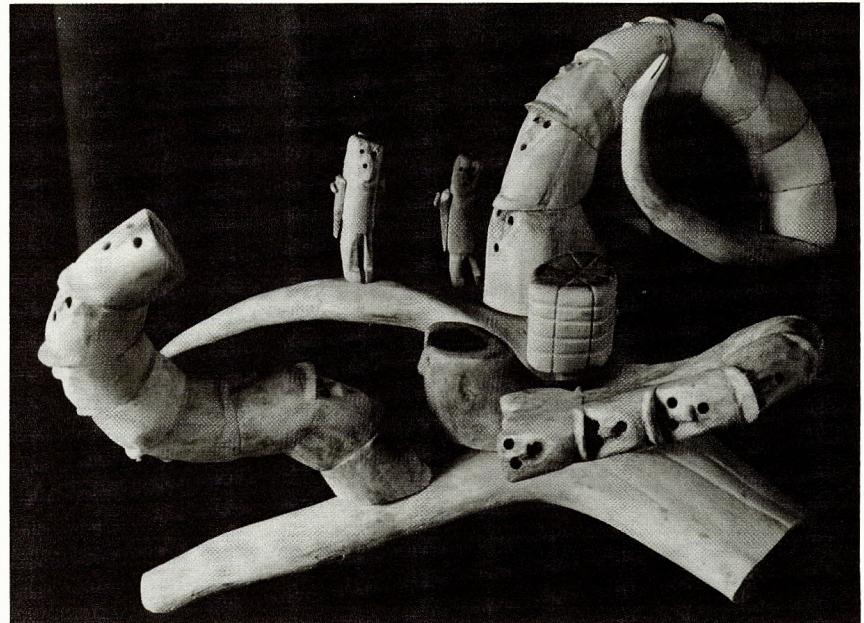


31●アルビアットからのこの彫刻は見る人によって原始的な稚拙なものと見えたり、その反対に高度に抽象化された近代的なものとも見られる。面白いことにこれは歴史時代のドーセット文化の彫刻とも、20世紀西欧のミニマリストの作品とも通じるところがある。

落で作られるジャコウ牛の彫刻のように、ここのものも民俗芸術としての魅力がある。

ランキン・インレットの作家もまた硬いキーウェイティン石やセイウチの牙を彫る。ここもイカルイットのように地方の中心地なので、いろいろの傾向が見られる。ごく簡潔で抽象的なものや様式的なものから厳密に写実主義のものまである。

32●アルビアットからのユーモラスで複雑なこの彫刻は枝角で作られている。これはおもちゃのように見えるが、部分を組み替えることもできる。同じ集落の重厚な石で彫られた作品と良い対照。



コッパー・マイン

ホーマン

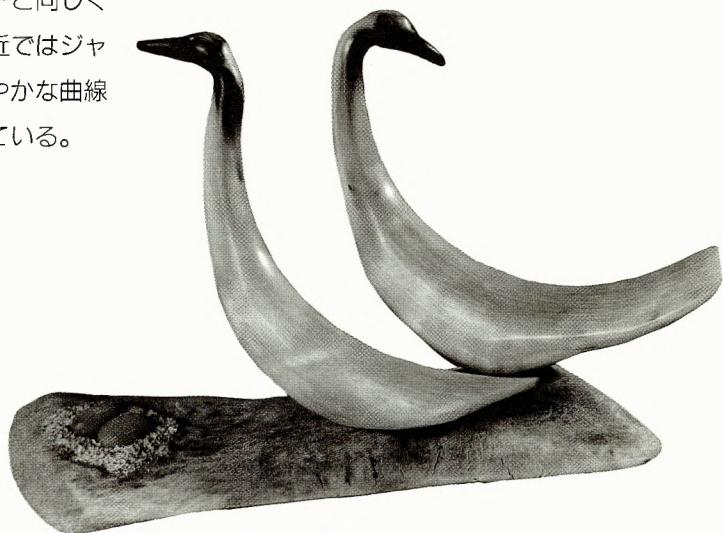


コッパー・マインは伝統的な野営生活の情景描写で一番良く知られている。これらの情景はさまざまな種類の石と木片、銅、鯨の骨、枝角などを取り合わせて作られる。よくイグルー（雪小屋）の屋根がとりはずせるようになっていたりするほど模型的だが、動きは少ない。一匹の動物、一羽の鳥や単身像もかなりある。

ホーマン集落の作家はクライド・リバーと同じく動物像や狩猟風景を鯨の骨から彫る。最近ではジャコウ牛の角が一般的になった。角のびやかな曲線は優雅な首の長い雁の姿を彫るのに適している。



33●この小さな彫刻はコッパー・マインからの作品。よく知られた類型で家族生活を現したもの。美よりも具象に重点を置く。写実的な細部からイヌイットの生活様式がよく分かる。



34●ジャコウ牛の角は優美な形を出すためホーマンの作家に頻繁に使われるようになった。イヌイットの彫刻家は前にも述べたとおり、枝角や鯨の骨も自然の形を利用して創意工夫を発揮する。

制作地の確認 (本物とイミテーションの相違)

イヌイット彫刻がカナダからの土産品として又は芸術品として高く評価されるにつれて、残念ながら大量生産された模造品が出来てきました。これらのものはプラスティックや陶器を石に見せかけてできていて、安い値段が何も知らない購買者をあざむく。模造品は投資としても美術品としても全く価値がなく、カナダ政府もカナダのイヌイット人も是認していない。実はこのようなものは本物の彫刻のイメージと、売れゆきを引き下げるばかりで、イヌイット人全体の収入に打撃を与える。

購買者とイヌイット人の双方を保護するためにカナダ政府は商標としてイグルー（雪小屋）のマークを登録した。下にある「イグルー・マーク」の札についた彫刻は確実にイヌイットの手工芸品であることが証明されたものであるから、このマークに御注意いただきたい。

必ずではないが、イヌイットの彫刻象は作品の底にローマ字かイヌイット語のかな文字で自分の名前を刻むことがある。左のかな文字表は名前を読む上の助けのために掲げる。彫刻によっては作品番号が底に彫ってあることもある。E又はWのついた番号は署名の一種である。

イヌイット彫刻に関する質問があつたら下記に御連絡願いたい。

Inuit Art Section
Department of Indian Affairs and
Northern Development
Ottawa, Canada
K1A 0H4

イヌイット語のかな文字

(子音だけ)

△ イ	▷ ウ	◀ ア	H
△ ピ	▷ プ	◀ バ	‘
□ ティ	▷ ツ	◀ タ	‘
▷ キ	▷ ク	▷ カ	‘
▷ ギ	▷ グ	▷ ガ	‘
▷ ミ	▷ ム	▷ マ	‘
σ ニ	▷ ヌ	▷ ナ	‘
▷ シ	▷ ス	▷ サ	‘
▷ リ	▷ ル	▷ ラ	‘
▷ ベ	▷ ユ	▷ ャ	‘
△ ビ	▷ ブ	▷ バ	‘
△ リ	▷ ル	▷ ラ	‘
▷ キ	▷ ク	▷ カ	‘
▷ ギ	▷ グ	▷ ガ	‘
▷ ヒリ	▷ ヒル	▷ ヒラ	‘



図版写真



- 1 ●顔
ドーセット文化
ハドソン湾、マンゼル島
骨、9×8×5.5
オタワ、カナダ文明博物館蔵
- 2 ●櫛
チューリー文化
ペリー・ベイ、イソルトック
石、11×4
チャーチル、エスキモー博物館
- 3 ●ジャコウ牛、1904年
作者不明
カナダ北極東部
石、角、6.5×9.5×3
オタワ、カナダ文明博物館蔵
- 4 ●女と子供、1954年
ジョニー・イヌクブック Johnny Inukpuk 1911年—
イヌクジュアック
緑色石、セイウチの牙、
20×20.5×29.5
オタワ、カナダ文明博物館蔵
- 5 ●ジョー・キルニニック Joe Kilooniuk の制作中
スペンス・ベイにて、1987年
- 6 ●ルーカシー・ツーカラック Lucassie Tookalak の制作中
ブエンヌックツークにて、1985年
- 7 ●鳥、1988年
シメオニ・ウッピック Simeonie Uppik 1928年—
サニキルアック
緑色石、10.5×29×6.5
- 8 ●彫刻を作っている男、1986年頃
ジミー・イナルリ・アルナミサック Jimmy Inaruli Arnamissak 1946年—
イヌクジュアック
石、15.2×25.4×11.4
- 9 ●セイウチに驚かされた熊、1988年
リバイ・アラショアック Levi Alashuak 1951年—
アクリビック
灰色石、高28
- 10 ●母と子供、1988年
アニー・ニビアチ Annie Niviaxie 1930年—
クージュアラーピック
黒色石、11×11×13
オタワ、インディアン問題、北方開発省蔵
- 11 ●カトタユックを夢みる女、1982年
ジェーミシ・アラソアック・アミット James Alasuaq Amittu 1955年—
ブエンヌック ツーク
灰色石、8×26×9
オタワ、インディアン問題、北方開発省蔵
- 12 ●坐って縫物をしている女、1980年
ジーニー・ツヌ・イリシトック Jeannie Tunu Ilisituk 1934年—
サルイット
灰色石、16×12.3×14.3
オタワ、インディアン問題、北方開発省蔵
- 13 ●伝統的な服を来た女、1977年
トマシ・クドルック Thomassie Kudluk 1910—1989年
カンギルスック
灰色石、セイウチの牙、カリブー鹿皮、木、ペンキ、28.2×14×14.5
オタワ、イーアン・リンゼイ氏蔵
- 14 ●無題、1984年
マツイシ・イヤイトック Matiusie Iyaituk 1950年—
イブジビック
石、カリブー鹿枝角、高20.3
- 15 ●熊、1987年
ジョニ・マリキ Johnny Maliki 1936年—
ホール・ビーチ
灰色石、26.5×10×11
- 16 ●無題、1987年
ケイン・イカルサック Cain Iqqarraq 1944年—
イグルーリック
緑色石、セイウチの牙、45×13×15
- 17 ●長靴の上の三匹のセイウチ、1981年
アールレー・イヌートック Aloooho Inutiq 1932年—
クライド・リバー
骨、セイウチの牙、12.5×8×5
カナダ国立美術館蔵（ドロシー・M・スタイルウェル・コレクション）
- 18 ●身がまえた鳥、1987年頃
ツツヤ・イキドルアック Tutuyea Ikkidluak 1962—1989年
ケープ・ドーセット
石、34.3×20.3
- 19 ●二頭の鯨、1977年頃
モーシシ・クルラ Mosesie Kolola 1930—1985年
レーク・ハーバー
緑色石、35.6×61×17.8

- 20●ふくろう、1980年
ラチュラシ・アキスック
Latcholassie Akesuk
1919年—ケープ・ドーセット
淡緑色石、32.5×31×10
オタワ、インディアン問題、北方開
発省蔵
- 21●ジャコウ牛、1980年
シーピー・アイピリ Seepee
Ipellie 1940年—
イカルイット
緑色石、カリブー鹿枝角、セイウチ
の牙、24×13×8
- 22●靈魂の頭と鳥、1978年
ライバ・ピチオラック Lipa
Pitsiulak 1943年—
パンメックツーク
鯨骨、高56
- 23●二人のレスリングをしている男、
1980年
ジョアナシ、クーニルーシ
Joanassee Kuniliusee
1935年—
プロートン・アイランド
緑とオレンジ色の石、26×28×22.5
オタワ、インディアン問題、北方開
発省蔵
- 24●女、1981年
モーディ・レーチェル・オキタック
Maudie Rachel Okittuaq
1944年—
スペヌス・ベイ
鯨骨、26×25×14
- 25●犬ぞりチームの風景、1987年
スールムーニ・イックイユイタック
Solomon Iaquiyuituq
1946年—
ペリー・ベイ
セイウチの牙、カリブー鹿枝角、長
さ46
- 26●巣ごもりのハヤブサ、1987年
サーリ・ウッジュック Charlie
Ugyuk 1931年—
スペヌス・ベイ
暗緑色石、41×21×39
- 27●靈魂、1988年
ニック・シックアック Nick
Sikkuark 1943年—
ジョア・ヘイブン
鯨骨、ジャコウ牛の毛、カリブー鹿
枝角、腱、歯、セイウチの頭
蓋、49×19×21
- 28●二人の女神、1981年
サイモン・イヌクサック Simon
Inuksaq 1923年—
リパルス・ベイ
セイウチの牙、化石化した骨、
3×11.5×7
オタワ、インディアン問題、北方開
発省蔵
- 29●魚を持つ女達、1979年
マティウ・アキガック Mathew
Aqigaaq 1940年—
ベーカー・レーク
黒色石、20×38×16
オタワ、インディアン問題、北方開
発省蔵
- 30●顔、1982年
ジョージ・アルルック George
Arluk 1949年—
ランキン・インレット
黒色石、17×14×8
- 31●顔、1972年頃
ルーシ・タシオ・ツツイタック
Lucy Tasseor
Tutsweetok 1934年—
アルビアット
石、17×16×6
トロント、オンタリオ美術館蔵（サ
ミュエル・サリック夫妻・コレクシ
ョン）
- 32●無題、1988年
ルーキ・アナウタリック Luke
Anowtalik 1932年—
アルビアット
カリブー鹿枝角、17.8×30.5×29
個人蔵
- 33●家庭内の風景、1980年
マルティナ・クレンゲンバーグ・ア
ナビロック Martina
Klengenberg Anavilok
1937年—
コッパー・マイン
褐、灰、緑色石、銅、14.5×19×11
- 34●二羽の雁、1988年
ニコラ・ウラレック Nicholas
Ulariuk 1923年—
ホーマン
ジャコウ牛の角、鯨骨、
18.6×31×12
- 表紙●イリサピ・ヌタラールック・
アウラチュット Elizabeth
Nutaraluk Aulatjut の制作中
アルビアットにて、1987年
現代のイヌイット彫刻はそれぞれの
エスキモー協同組合の許可を受けて
掲載された。



Indian and Northern
Affairs Canada

Affaires indiennes
et du Nord Canada

Published under the authority of the
Hon. Tom Siddon, P.C., M.P.,
Minister of Indian Affairs and
Northern Development,
Ottawa, 1990.

QS-8422-000-JJ-A1
Catalogue No. R72-208/1990J
ISBN 0-662-02189-4

© Minister of Supply and Services Canada